

令和7年度 島根県立図書館運営方針及び活動計画(第2次)の進捗状況

資料 1

目標	指標	令和6年度実績値		令和6年度	令和7年度	令和7年度の評価・課題	(目標数値)	備考
				(1月末現在)	(1月末現在)		令和10年度	(目標設定の考え方)
1 県内の図書館との連携と協力の推進	① 相互貸借(協力貸出)冊数	9,530冊	目標値	11,000冊	11,000冊	協力貸出は全市町村の公共図書館等で利用されており、県立図書館の搬送便によって計3,562冊の資料を提供した。県立学校等の学校図書館へは県庁の送便等を利用して計2,734冊を提供したが、昨年度と比較すると約2,000冊減少している。原因としては、高校の探求学習等で、直接インターネット情報や生成AIを利用する機会が増え、資料の利用が減っていると考えられる。しかし、特別支援学校では昨年度と同様に資料の利用が見られるので、多様なニーズに対応できるよう今後も資料の充実に努める必要がある。	11,000冊以上	R4の実績9,934冊を元に、毎年11,000冊以上
			実績値	8,269冊	6,580冊			
	② 横断検索による検索数	89,145件	目標値	120,500件	122,500件	令和6年度の月平均7,428件と比較すると、令和7年度は月平均7,596件で推移しており若干増加している。横断検索システムは、図書館同士が県内にある資料を互いに有効活用する上でも重要なことから、今後も維持していくことが必要。	128,500件	R4の実績116,826件を元に、5年後に10%増加
			実績値	74,917件	75,962件			
	③ 県内公共図書館の県民一人あたりの個人貸出冊数	4.35冊 (2,764,076冊/ 635,184人)	目標値	4.8冊	4.8冊	令和7年度の結果については『島根県公共図書館年報 令和8年度』により、各市町村の貸出冊数が確定したら公表するため、現時点での評価なし。	4.8冊以上	平成30年度実績4.81冊
			実績値	—	—			
2 県民や地域の課題解決に役立つサービスの提供	④ 遠隔地利用者図書貸出サービス(絵本バッグを含む)の利用件数	883件	目標値	1,090冊	1,190冊	オンライン利用登録を開始したR6.11月以降、利用件数(貸出冊数:935冊)は微増している。市町村別の利用状況をみると、出雲市、益田市、大田市の順に多く、3市だけで448件の利用があった。相互貸借(協力貸出)と併用して、今後も直接来館しなくても最寄りの図書館(松江市を除く)を通じて県立図書館の資料を利用できることを県民に周知する必要がある。	1,600件	R4の実績893件を元に、毎年10%増加
			実績値	745件	801件			
	⑤ バリアフリー資料貸出冊数	2,555冊	目標値	3,500冊	3,600冊	バリアフリー資料の充実を図るため大活字、デジ資料等を整備した。また、アクセシビリティの観点からも、朗読CDや視覚・聴覚障がい者用の音声ガイドや字幕つきDVD(上映可能な著作権処理済)を整備した。さらに、障がいのある方が郵送で資料を借りられる際に負担が軽減するよう日本郵便株式会社の特定録音物等発受施設の指定を受けることができたので、「来館困難者のための郵送等貸出サービス」に関するPRを関係団体等に行い、該当の県民に届くよう周知を図った。引き続き関係機関等と連携して、サービスの周知が必要である。	3,900冊	R4の実績3,271冊を元に、大活字・点字・LL・DAISYの貸出冊数、毎年3%増加
			実績値	2,159冊	2,357冊			
	⑥ ホームページアクセス数	198,979件	目標値	211,600	217,900	R7.11月から土・日・祝日の学習室利用についてインターネットでの予約制を開始したことにより、定期的にアクセスする方が増えた。公式Xによる情報発信についても、タイアップ展示やイベントの情報など週1~2回の頻度でポストしている。R7.10月から「職員おすすめ本」として、司書職員がおすすめしたい本1冊を200字程度で紹介する企画を始め、HP、Xの両方で発信しており、今後も興味・関心を持ってもらえるような情報を発信していく必要がある。	238,000件	R4の実績199,485件を元に、トップページ閲覧数、毎年3%増加
			実績値	165,998件	168,332件			
3 子どもの読書活動の推進	⑦ 子どもの本に関する情報提供件数	15件	目標値	15件	15件	HP等を活用して「おすすめしたいこどものほん」「書評雑誌に掲載された子どもの本」など、図書リストや書評による情報提供を実施した。このほか、林業課が発行している情報誌「みーも通信」や山陰中央新報発行「りびえーる」での絵本の紹介、また読売新聞の取材で推薦図書を紹介するといった他のメディアを活用した情報発信を行うことができた。引き続き、様々な機会を捉えて情報提供を実施する必要がある。	15件以上	図書リスト、書評などHPや新聞等による情報提供、毎年15件以上
			実績値	15件	16件			
	⑧ 学校司書等を対象にした研修会に対する図書館職員の満足度(5段階評価)	4.83	目標値	4	4	170名分(1/14現在)のアンケート結果により、満足度は4.76と平均4以上を超え、多くの参加者に概ね満足してもらえる結果となった。学校司書研修で「あまりよくなかった」を選択した理由として、「研修内容(著作権)が難しかった」「本の修理方法が知りたかった」といった意見がみられた。個々のレベルの違いや、表情が見えないオンラインでの開催は、参加者の細かいニーズを捉えにくい側面はあるが、引き続き多様なニーズに対応できるよう適切な研修を提供する必要がある。	平均4以上	学校司書研修、専門研修、出前研修の満足度、毎年平均4以上
			実績値	4.83	4.76			
4 知の拠点として調査・研究の支援	⑨ レファレンス受付件数	6,307件	目標値	10,000件	10,000件	生成AIの進展により、人々の情報探索行動が大きく変化している。図書館で行うレファレンスも軽微なものは減少し、高度化、細分化の傾向にある。デジタルツールを活用して従来の図書館資源をさらに活かすサービスや、AIには難しいコミュニケーションを必要とするレファレンスにより注力していく必要がある。	10,000件以上	毎年10,000件以上
			実績値	5,321件	4,710件			
	⑩ レファレンス協同データベースでの情報公開件数	50件	目標値	50件	50件	「小泉八雲が下市で盆踊りを見たいが、これについて八雲の記述があるか」「八雲が松江から見える大山について記した文章はあるか」といった小泉八雲に関する事例を含め、1月末時点で38件の情報公開を行った。今後レファレンス事例の追加、調べ方マニュアルの更新、特別コレクションで所蔵古文書の目録を公開する予定であり、3月末までに計50件となる見込みである。	50件以上	事例、調べ方マニュアル、特別コレクションの公開数、毎年50件以上
			実績値	19件	38件			
	⑪ しまねデジタル百科でのデジタル化資料公開点数	5点	目標値	5点	5点	浜田城資料館で開催される企画展「絵図にみる浜田町人地の変遷」(R8.2/7~5/24)に当館の資料が展示される予定だが、それにあわせ、展示中の絵図を含む「浜田城下町人屋敷図」13点を、3月までに公開する。	5点以上	毎年5点以上公開
			実績値	0点	0点			
	⑫ 郷土資料の掲載・放映・出展件数	50件	目標値	40件	40件	島根県立古代出雲歴史博物館が耐震改修工事等によりR7.4月から休館している影響等により件数が減少した。朝ドラ「ばけばけ」の影響で小泉八雲とセツに関連した資料の利用が多くみられた。特に『西田千太郎日記』は、松江歴史館や小泉八雲記念館での展示や、NHKテレビ番組「歴史探偵」「ブラフミエ」の放映で使用されるなど利用が集中した。また、県立図書館では「ハルン文庫」を設置し小泉八雲関係資料を収集していることから、ドラマの放映にあわせて展示を行った。引き続き郷土資料の有効活用や情報発信に努める。	40件以上	出版物やwebメディア等への掲載、テレビでの放映、展覧会への出展等、毎年40件以上
			実績値	36件	19件			

参考指標	令和5年度	令和6年度	令和7年度 (1月末現在)
入館者数	218,608人	198,190人	168,355人
個人貸出冊数(来館・郵送)	295,081冊	236,520冊	182,923冊
受入冊数	13,356冊	12,424冊	10,978冊
蔵書冊数(館内用)	720,182冊	715,644冊	722,772冊